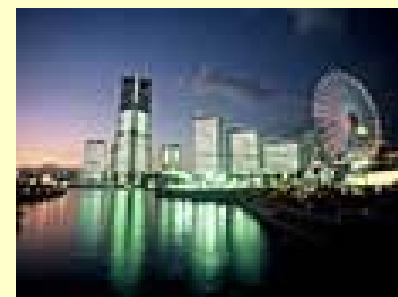


私たちのつくる未来家族

中学校区での身近な生活を考える



2005年11月3日

こどもみらい考がエール

家族構成

2005年 縦野家

家族のプロフィール

父：縦野 陸夫

母：縦野 陸子

長女：かこちゃん（8歳）

長男：おかひこくん（4歳）

次男：げんきちくん（0歳）

横浜市港北区在住 5年前に3LDKのマンションを購入

父：会社員 株式会社ビジョン勤務 勤務先：東京都

母：現在育児休業中 公立小学校勤務

長女：横浜市立第一小学校3年生 習い事：ピアノ

長男：よこはま保育園 年少 公園遊び大好き

次男：生後6ヶ月 健診で発達の遅れを指摘される

家族構成

2025年 横田家

家族のプロフィール

父：横田 浜夫

母：横田 浜子

長女：みらいちゃん（8歳）

長男：みなとくん（4歳）

次男：こすもくん（0歳）

横浜市港北区在住 5年前に3LDKのマンションを購入

父：会社員 株式会社ビジョン勤務 勤務先：東京都

母：現在育児休業中 公立小学校勤務

長女：横浜市立第一小学校3年生 習い事：ピアノ

長男：よこはま保育園 年少 公園遊び大好き

次男：生後6ヶ月 健診で発達の遅れを指摘される

乳児支援

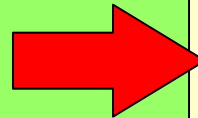


課題

1. 障がい児支援
2. 小児医療
3. 母親の職場復帰
4. 出産費用一時金

2005年 げんきちくん

- ・療育センター半年待ち
- ・保育機関と医療の連携なし
- ・母、復職を断念
- ・情報不足、孤立
- ・保育園受入れ枠いっぱい
- ・一時的な出産助成金



2025年 こすもくん

- 中学校区で、**保育園での療育支援**がすぐに受けられる
- 多様な保育支援**により、サポーター派遣を選択し、母は職場復帰
- ファミリーケースワーカー**による個別支援を受けられる
- 地域での**共育共生支援システム**が確立
- 育児保険**により総合助成

幼児支援

課題

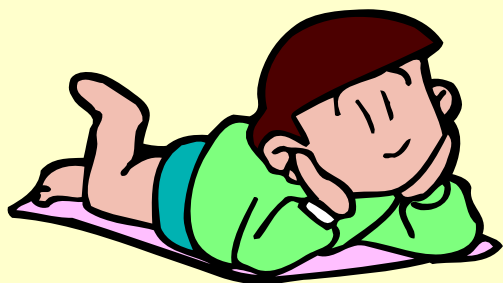
1. 保育園の入所率
2. 病児病後児保育
3. 保育支援
4. 地域との関係

2005年 おかひこくん

- ・ 保育所の15%入所率
- ・ 病気の場合は親子で休む
- ・ 保育支援はほとんど保育園のみ
- ・ 地域との関係は希薄

2025年 みなとくん

- 入所の希望は叶えられる
- すべての園で医療機関と連携があり、病児受入可能
- 行政と民間の、多様な保育サービスを選択できる
- 幼保一体化“子ども園”設置
- 学校と子ども園の縦の連携がある
- 地域やプレイパークなどとの横の連携がある



学齡児童支援

課題

1. 放課後支援
2. 公立学校の在り方
3. PTAの在り方
4. 不登校、フリースクール

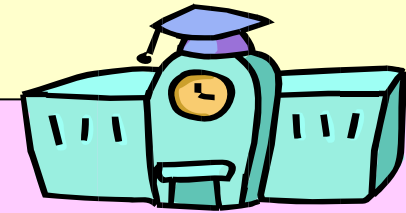
2005年 かこちゃん

- ・ 母、復職絶望で学童断念？
- ・ はまっ子ふれあいスクールは“預かりではない”と断られる
- ・ 放課後安心して遊べる場がない
- ・ 子どもと向き合う時間が少なく、学校の先生には気軽に相談できない
- ・ ピラミッド式のPTA。働いている保護者は参加が難しい
- ・ 家族が不安定で不登校気味

次ページへ...



2025年 みらいちゃん



- 公立学校での**多様な勤務形態**により、母親は短時間勤務や**複数担任制**で仕事をシェアできる
- 企業、NPO、地域による誰でも参加できる**多様な放課後、長期休暇対応型プログラム**がある
- 学校全体でボランティアが活動。**学びも多様化**し、子どもは自分の個性を伸ばすことができる
- 本当の意味での**パブリックスクール**（公立学校）として、地域も参加できる**PTSA**が確立している
- コミュニティハウスのコーディネーター**が、気軽な相談者として存在し、学校と家庭、地域などとのつなぎ役を果たしている
- 小学校と中学校の連携が盛んで、**異年齢の交流**により、学びあい、育ちあえる環境がある
- 子ども権利条約**に法り、不登校や障害のあるなしにかかわらず、すべての子どもたちが、自分に合った学びの場が保障されている

家族支援 (夫)

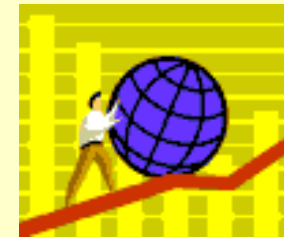
課題

1. 就業時間
2. 雇用条件
3. 職場環境
4. 地域との関係
5. 家庭内の問題

2005年 陸夫さん

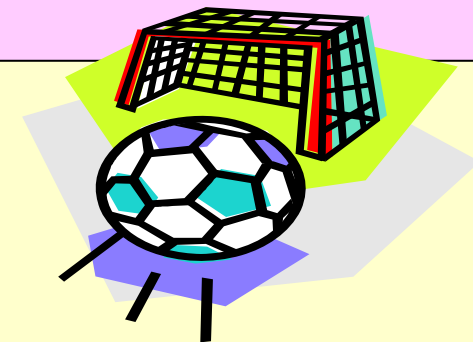
- ・ 深夜残業、休日出勤
- ・ 職場に育休の経験者なし
- ・ 中間管理職の厳しさで職場うつ傾向
- ・ 地域との関係は希薄
- ・ 来年は順番でマンション管理組合の役員になる予定
- ・ 夫婦の会話はメール。しかも箇条書き
- ・ 家事分担で夫婦喧嘩が絶えない

次ページへ...



2025年 浜夫さん

- 働く時間は自分で決めるフレックス制
- 育休制度**をつかい、在宅テレワーク中。午前の育児担当。
- 週末は学校で、学生時代にやっていたサッカーのコーチをしている
- 保育園の保護者会をきっかけに、父親同士の交流が活発化
- 新しい**地域自治組織**への参加で、まちの問題を解決する仕掛け人となっている
- コミュニティハウスで知り合った方に子どもを預けて、夫婦2人でリフレッシュする時間を持っている



家族支援 (妻)

課題

1. 女性の雇用
2. 育児負担
3. 家計
4. 地域との関係
5. 家庭内の問題

2005年 陸子さん

- ・ 教員という仕事の大変さ、次男の障害の発覚で、退職を考えている
- ・ 次男の障害を受け入れることへの精神的ダメージがある
- ・ 退職に伴う住宅ローン、教育費などの負担増
- ・ 地域に友人がいない
- ・ 両親、親戚も遠く、支援は期待できない
- ・ 夫の帰宅が遅く、相談もできない

次ページへ...



2025年 浜子さん

- 公立学校での多様な勤務形態により、母親は短時間勤務や複数担任制で仕事をシェアできる
- 障がい児支援が充実し、子育てについて、いつでも専門家やピアカウンセリングなど、必要に応じて相談にのってもらえる
- 福祉共育が教育全体に浸透し、地域でいっしょに子育てできるシステムができています
- 多世代型の“コレクティブハウス”など、良質な住宅供給システムが充実している
- 子どもの個性に合わせた企業などによる奨学金システムが整っている
- 地域のあちらこちらに、親子が気軽に集えるサロンやひろばが存在し、自分の暮らしや子育てに合った居場所が選択できる
- 地域でのサポートシステムが確立し、血縁にとらわれずに支えあえる街になっている

20年後...
子どもも大人も
その人が自分らしく
生きられるように

「学び」と「暮らし」が
約束される
よこはまをめざして

